

RealPCR™

猫伝染性腹膜炎ウイルスパネル(FIPVパネル)

2015年の開始以来、猫伝染性腹膜炎(FIP)のより確実な診断のサポートとしてFIPVパネルが活用されています。

猫伝染性腹膜炎とは？

猫伝染性腹膜炎(FIP)は猫伝染性腹膜炎ウイルス(FIPV)によって引き起こされます。FIPVは、病原性が弱く腸管内のみで増殖する猫腸コロナウイルス(FECV)が体内で突然変異によって強毒化したウイルスです。FIPVとFECVは病原性に違いはあるものの、同一種である猫コロナウイルス(FCoV)として扱われます。

また、FCoVにはI型とII型の2つの血清型が存在し、I型FCoVは猫に特有のウイルスであるのに対し、II型FCoVは猫のコロナウイルスと犬のコロナウイルスが組み換えを起こしたものと考えられています。どちらの血清型であってもFIPを引き起こす可能性があります。

RealPCR™ 猫伝染性腹膜炎ウイルスパネルでわかること

FIP診断のゴールドスタンダードは免疫組織化学染色によって、病変部のマクロファージに存在するFCoVを証明することにあります。しかし本検査は侵襲性が高いため、多くの場合、生前検査として行うことは困難です。そのため臨床的には、FIPに一致する症状がある猫にPCR検査を実施し、変異株(FIPV)または腸管外で増殖するFCoVを証明することが現時点で最も一般的かつFIPを強く支持する検査とされます¹。

IDEXXのRealPCR FIPVパネルではFCoVの陽性/陰性に加え、FCoVが陽性の場合、さらに変異の有無によるバイオタイプの分類が可能です。FIPVに特異的な2つの変異点を検出することで、より正確な診断をサポートします²。

PCR検査で病原体を特定または除外することで、より適切な治療法の選択や飼い主様へのご説明が可能になります。

RealPCR™ 猫伝染性腹膜炎ウイルスパネルのご利用場面

シグナルメントや不明熱、腹水貯留、高グロブリン血症、A/Gの低下などから**FIPを強く疑う猫**

1. Kennedy MA. Feline Infectious Peritonitis: Update on Pathogenesis, Diagnostics, and Treatment. Vet Clin North Am Small Anim Pract. 2020;50: 1001-1011.

2. Chang H-W, Egberink HF, Halpin R, Spiro DJ, Rottier PJM. Spike protein fusion peptide and feline coronavirus virulence. Emerg Infect Dis. 2012;18: 1089-1095.

猫伝染性腹膜炎ウイルスパネル(FIPVパネル)の結果解釈がさらにわかりやすくなりました。

結果分類のバイオタイプに新しく「混合型」が加わり、FIPの診断により活用しやすくなりました。

新しいバイオタイプ分類を含めた結果解釈

| バイオタイプ | 解釈 |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| FIPV | FIPVへの変異が認められます。 臨床症状が認められる猫ではFIPを示唆します。臨床症状がない場合でも、FIPを発症するリスクが高いため、慎重なモニターを実施してください。 |
| 混合型 | 変異のないFECVと変異のあるFIPVの両方が検出されました。 FIPを発症するリスクがあるため、慎重なモニターを実施してください。 すでにFIPの臨床徴候が見られている場合は、1～2週間後の再検査が推奨されます。 |
| 分類不能 | FCoVが多量に検出されましたが、FIPVおよびFECVのどちらのバイオタイプにも該当しませんでした。糞便以外の検体の場合、FIPが疑われます。 ウイルス量が多いにもかかわらずバイオタイプが特定できない場合は、新しい変異株や犬コロナウイルスのスパイク蛋白との組み換えウイルス(Serotype II)である可能性があります。 |
| 検出限界以下 | FCoVが検出されましたが、バイオタイプの解析に十分なウイルス量が得られなかったため、バイオタイプの特定はできませんでした。 しかしながら、本結果からFIPを除外することはできません。 ウイルス量の少ない全血検体ではよく見られる結果ですが、あらゆる検体で起こり得ます。 このバイオタイプの場合、検体を腹水や胸水、脳脊髄液、生検組織、針吸引組織などに変更することでバイオタイプを特定できることがあります。 |
| FECV | FCoVに変異は認められませんでした。FIPである可能性は低いと考えられます。 |

| 検査項目名 | 内容 | 検体 | 保存方法 | 所要日数 | 参考基準値 |
|-------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|------|------|-------|
| 猫伝染性腹膜炎ウイルス(FIPV)パネル【2項目】 <small>*本検査は1型FIPVのみ検出</small> | <ul style="list-style-type: none"> 猫コロナウイルス(FCoV) コロナウイルスバイオタイプ | 体液：胸水、腹水0.5ml以上 組織：病変の存在が疑われる臓器、リンパ節、大網、脾臓、腸間膜リンパ節 | 冷蔵 | 1～4日 | (-) |

FIPVウイルスパネルのより詳細な情報はこちら

IDEXX お客様専用サイト 検査サービス ご利用ガイドページ カテゴリー別検査案内

www.idexxjp.com/lab/

